

## Ⅱ 第7回鯨に関する座談会

主催 水産海洋研究会

主 題 「鯨の資源と環境」

日 時 昭和41年12月7日午後1時～4時

場 所 日本水産株式会社大会議室

コンビーナー 大隅清治（東海区水産研究所）

話題および話題提供者

日本における捕鯨業の変遷

大友 亮（日本近海捕鯨株式会社）

チリー・ペルー沖の鯨の資源と環境

渡瀬節雄（大洋漁業株式会社）

鯨の漁場と資源

大津留健（日本水産株式会社）

鯨資源診断における海洋条件（プランクトン、海況等）の考慮について

根本敬久（東京大学海洋研究所）

### 1 日本における捕鯨業の変遷

大友 亮（日本近海捕鯨株式会社）

大正14年一作業員として東洋捕鯨にはいつて以来40年余りたち、主に大洋漁業で働いた間にみた歴史的発展をのべた。古来の突とり、網とりの捕鯨から、明治30年代に日本遠洋漁業株式会社設立以来ノルウェー式捕鯨に発展、諸会社乱立后経営合理化・資源保護などの目的から、明治42年東洋捕鯨、長崎捕鯨、大日本捕鯨その他の会社が合併し、東洋捕鯨株式会社を設立した。大正6年に改組した土佐捕鯨は藤村捕鯨および大東漁業を買収したが、大正13年当時の林兼商店は後に現大洋漁業に吸収された。大正12年ごろは三陸沖では距岸100哩までの漁場で遠洋捕鯨、鮎川捕鯨がマッコウクジラを専門にとつていたが、当時東洋捕鯨（共同漁業と合体前、日水の前身）の大型捕鯨船が130トン級であつた。昭和9年日本水産が始めて南極洋母船式捕鯨をはじめた。土佐捕鯨所属福志満丸（130トン）船長志野徳助らが活躍していた当時の捕鯨砲は70ミリ（前からこめた）が後に90ミリ砲で後こめになり、当時の船速は10-11ノット出たとき鯨がよくとれると喜んだ。今では船速15-16ノット出ても鯨が獲れない場合が多くなつたが、時代とともに鯨の方が速くにけるよになつたのか？大正11-12年までは100哩以上沖へ出る捕鯨船はなかつた。志野徳助は明治40年以來福志満丸船長としてノルウェー式捕鯨に従事し、天測を学び、当時乙2の資格者の多かつた中で甲2の免許をとり、はじめて金華山三陸100哩以上沖で好漁した。そのころは天測不要の近

岸に鯨が居た。距岸40～80哩で金華山の見える範囲で一般に操業し、自分の記憶では距岸17哩でイワシクジラをとった。イワシクジラ、ナガスクジラは20～60哩前後にみられ、100哩沖にいればマッコウクジラはいつでもいた。釜石沖80哩で漂泊中マッコウ4頭を見た例もある。東沖に1日20～30マイルの流れで4日間流され、マッコウクジラを曳いて3日～4日石炭たいて汽走しても山が確認出来なかつたため、マッコウクジラを棄てて走り、4日目によりやく金華山を見て気仙沼に入港したが、石炭庫空の状態であと何時間もおれぬ瀬戸際だつたので天測の必要を悟つた有様だつた。

クロノメーターを合わせるのにも苦勞した。漁場20～100哩のそのころ、カツオ漁船から300哩沖に出ればマッコウクジラが無数に分布しているという情報が得られた。大正14、15年頃ラジオ放送が始まり、競つてラジオをつけ、時間を正確に合わせる事が可能となり、天測の精度も高くなつて来た。当時、内村捕鯨の丸三丸など金華山沖120哩でマッコウクジラがプロペラに当つて折損、帆走し、沖へ流れるときは帆をはづし天測で船位置を求めて助かつたこともあつた。

昭和5、6年欧州において鯨油の大暴落が起り、非常な大不況に落ち入り、石油缶一ぱいが1円、中には60何銭に下落し、売らぬともめた。マッコウ1頭が500円を割つたこともあり、沖へ出たら「マッコウをとるな。イワシクジラを見ればとれ」といつたものである。50円の月給を45円に1割減俸、大正末～昭和の初年は経済的に追われていた。昭和7、8年焼玉エンジンをディーゼルにかえ、昭和9年に日水の図南丸が南極洋に初出漁した時は、明治32年岡十郎がノルウェー式捕鯨を始めたときと共に、捕鯨の二代轉換期であつた。昭和11年当時大洋捕鯨(現在の大洋漁業)が日新丸捕鯨船団(団長志野徳助)を南極洋に出した。それまでのキャッチャー100トンクラス(190-220馬力)が、290トン(770-790馬力)、昭和13年(900HP)、14年(1100HP)、15年(1300HP)、16～18年(1600HP)、昭25年(2000HP)、同27年(2350HP)、29年(3000HP)、35年(3500HP)と大型化していつた。昭和20年8月終戦、11月小笠原捕鯨出漁のGHQ許可を得た。しかし小笠原陸上基地は貸せないというので、母船式のように特務艦の艀をスリッブウェイに改造したが、長年のうちでこんなに苦勞した経験はなかつた。救命設備、氷も塩もないないづくして、腐つた鯨や腐る一歩手前の鯨肉を、歩留り手一杯で供給、これでも国民食糧難緩和に役立つたとGHQに認めてもらい、翌年の昭和21年南極洋捕鯨再開に漕ぎつけた。現在、曲り角に來ている水産とは言え、捕鯨はまだ大きな比重をもつており、変遷を顧りみて感慨無量である。